芸振

大分県芸術文化振興会議会報

No. 15.16 48. 3

発行所・大分市大手町　県教育庁文化課内　芸術文化振興会議事務局
発行人・米　田　貞　一　　編集人・矢　野　朔　雄

芸術の大衆化

大分銀行竹田支店長
三重野　耕　治

教育水準が高まり毎年芸術関係の大学を卒業してあらたに社会に送りだされるアーチストの卵は7.8千人もいる。この傾向は今後も続くし、引いては芸術文化の向上をうながすことは喜ばしいことである。芸術の発展とその厚層化は、わが国がそれだけ豊かになったことの証拠でもある。

今から3.4十年前といえば昭和10年ごろに当るがピアノのある家庭は数えるほどしかなかった。1台が千円（物価が千倍になったとみて今の金にして百万円）といわれた。千円では家1軒新築できた。

そんな時代だったからピアノは別荘か豪壮な邸宅だけにしかなく、ピアノを持つこと自体、ご主人のステイタスシンボルになっていた。

ヨーロッパにおいては事情はかなり違っていたようだ。むかし小学国語読本に「月光の曲」というのがありそれによると、若い日のベートーベンが月のさえた冬の夜友人と散歩にでて、小さな露路のみすぼらしい家の中からピアノの音がもれるのを聞いた。中に入ると少女はメクラ、兄は靴を縫う職人、ピアノは旧式で楽譜さえない。そんな貧しい家にもピアノがあった。

現在ではあちこちの家からピアノの音が聞えるしお弟子の発表会が日曜日に各所で行なわれている。だから西欧の2百年前の状況を追ってわが国にも芸術の大衆化が急ピッチで進められているといえよう。だが、猫も杓子も音楽の勉強となると、本当に力のある人が見なおされてくるし、量から質への転換が迫られるのは必至であろう。

所得がふえレジャーが増大する社会において、株や土地などの投機に向かう金があるなら、音楽家の演奏会や美術の鑑賞に金をつかってはどうだろうか。トムジョーンズの大阪公演入場料が3万3千円だったというが、地方にも東京の一流音楽家がたえず公演し、3、4千円の入場料をとってもどんどん聴衆がつくぐらいのレベルまでなってほしい。絵画ブームといわれるが、美術鑑賞芸術愛好のための買いあさりでなく、エコノミックアニマルとしての、即ち投機としての買いあさりのような気がしてならない。そんな時代であるあいだは文化は本物でないような気がする。

しかし、芸術の普及と進歩は目にみえないがどんどんしのびよって何かたのもしい気がするこのごろである。

吹奏楽発展を願う

大分県吹奏楽連盟会長
和　田　政　見

過大科学の発展は未知の世界を開き、豊かな社会実現をきざしているが、これに伴う各種の危機も吾々に直面しつつある。確かに豊かな中の貧しさか、寧ろ自由を標榜しながら自由を奪われ、人間らしい心の失われている危機感にとらわれる。確かに時代の推移はめまぐるしい。その中に従来の志向は変化しつつある。伝統志向が寧ろ自由志向へ、唯心面の志向が唯物志向へ、然しそうした志向の背景や時の流れ、推移の背景なく唯時代の変化にのみ、変化する心にも淋しさを覚える。唯こうした推移の中に失われてならないのは確かに情操の豊かさがもっと、もっとほしい。 物に追われ、物に使われ、物を求める、その求めるものに心の求めがやや薄らいだ感がしてならない。昨年ゼームス・バーダル氏を招いての県芸術祭参加は誠にすばらしい認識と効果を修めた。勿論メンバーの乱れぬ和と調和の求める心の力の結集であったがこの世話をなした裏方ともいうべき方々の努力は絶大なものがあった。特に文化課の各位、中でも中野氏の労苦は筆では言い尽くせないものがあった。バーダル氏の選曲と指揮もすばらしかったが、吹奏メンバーの最善の努力と善意に頭の下る思いがする。再びこれだけの情操の陶冶が認識度が生まれるか心配でならない。然し歩をここまで進めた以上、山田耕作氏の「音楽は文明の進路の燈火である」とプラントンの「音楽の様相が変化すれば社会の様相はおのずと変化する」この二つの言葉の燈火となろう、影響を受けよう、吾々は本年も是が非でも実施したい。問題は費用の問題の解決であり、広く県下全体への認度を深めることによって、心の燈火を求めようとする努力が必要であろう。本年度欲を言えば吹奏楽の範囲を広めたいこと。尚昨年の大分、別府会場に留めず、広く県下で行事を行なうべきではなかろうか。県北中津、県南佐伯、豊肥竹田、それに大分、別府と広く公開の枠を拡げて燈火を一つでも多い場に求めたい希望である。

紙面の都合で書きたいことも書けないが、終りに出演者の御苦労に多謝し、是非本年度も御協力を賜わるよう芸術祭県民認識度を高めるためにも御願いいたしたいと願って止みません。

10年目を迎えた大分交響楽団

大分交響楽団事務局長
岡　村　光　郎

昭和38年12月15日大分交響楽団の総編成ができてから、10年目を迎える。

結団式にはせ参じた人々の顔は、よろこびと期待とに満ちあふれ、熱気が立ちこめていた。主宰者山野氏の音頭で乾杯した、ちょっぴりのシャンペンのもの足りなさ。それでも、我が大分県にはじめて誕生したアマチュアオーケストラの前途を祝う会場は拍手と酔ったように握手をとりかわす人々の声でわきかえった。

十年一昔というが、今日の大分交響楽団を見るとき、その成長ぶりには、我ながらおどろく。吹奏楽団まがいの奇妙な編成の第一回定期演奏会が、なんと感激的であったことか。当時、テープレコーダーなるものの普及を現今のようではなかったから、その音がいかなるものであったかは知るよしもないがおそらくお義理にもほめられたものではなかったであろう。

しかし、その感激を忘れることなく、団員の熱意と、忍耐は今日まで一日も消えることなくひきつづいた。毎週日曜日がくると、誰にいわれることもなく、楽器を手にした団員は遠くから近くから設備の悪い練習場に顔を出した。大雪の日にも、台風の日にも必ず幾人かが音出しを絶やさなかった。その努力こそが現在の大分交響楽団を、ここまで育て上げたものと信ずる。

また大分大学・芸短・緑高の先生方の専門家としての指導協力は、大分交響楽団の質的向上に拍車をかけ、今日を創り出し得たのである。

地方文化の有り方を考えるとき、このような専門家達の支援が、質の向上にいかに大切なものであるかを痛切に感じ、また、かくあることを喜ぶものである。

質的向上はなし得たが、ここに問題となることが生じている。技術的に高くなればなるほど、初心者を迎え入れる余地がなくなったことである。定期演奏会の度毎に、プロに印刷される団員募集広告はいつも無為に終わっている。年々団員の高年令化は進

む。創立当時 100人に近かったメンバーの内、残るのはわずか10名に満たない。今こそこのことに真剣にとりくむ時が来たと思う。創立当時の古い資料の中に、次のような入団申込みの葉書を見つけたのであるが、「新聞で知りました。交響楽団の研修生として入団したいと思います。未熟ですから勉強して行きたいと思います。なにとぞよろしくお願いします。」という文面である。記憶では、この手紙の主は一二度きたきり、ぷっつりと顔を見せなかった。もし養成の手があれば、この高校生は、今では有力なメンバーとなっていたかも知れない。現団員の自らの研修に止まることなく、広く県民の音楽レベル向上のために目を開き、明日の大分交響楽団の発展に心すべき時が来ている。

練習場の不足、県市の助成策のことなど、多くの問題はかかえているが、苦しくても甘えてはならない。アマチュアはそれらしく努力するとき真のアマチュアとなろう。けれどもプロのレベルまでを夢見ることを忘れてはならない。夢見ることを忘れ、自己満足に止まれば、江戸落語の「ねどこ」と同じ「旦那のお家芸」となり果てる。聴衆の耳は日毎にするどくなり、妥協を許さなくなっている。創立当時の聴衆は、種々の快挙に目を見はり、温かくはげましてくれた。しかし、今や大分交響楽団は、自らを冷静に見つめ、出発点に立ちかえった気持ちで、努力すべき重大な時を迎えていると思う。

＜オペラ＞吉四六昇天

大分大学教授
県民オペラ総監督
小長久子

六年前、はじめて大分県在住の人でオペラをやってみようということになり、大分合同新聞社の企画で座談会が持たれたことがあった。その時、将来は大分県の民話を題材に創作オペラを作り、ぜひ上演したいという希望を語った。どういう時期にどのように取組もうかと日頃から考えては来たが、このように早く永年の夢が実現できるチャンスが来るとは当時は思ってもみなかったことであった。

それは一昨年の春、福岡市の桐山愛海氏門下生による清水脩作曲のオペラ「修善寺物語」が電気ホールで上演された時のことであった。この出演者は東京在住の氏の門下生が殆んどあるため、練習は東京でなされ、福岡の人も上京して参加しており、衣裳装置も広島まで来ていた東京芸大のものをトラックで福岡まで運搬して借用したとのことであった。宮原卓也、吉岡巌など、わが国の中堅どころも出演して、かなりレベルの高い演奏であった。一管編成のオーケストラに福岡の江口保之氏が編曲、自身が棒を振った。このオペラが終った後、作曲者の清水脩先生が来ておられるというので舞台裏に関係者に案内され、はじめて先生にお逢いした。この時どちらからともなく「吉四六ばなし」が話題に上り、この物語はシリーズもので先生もよく読んでおられて、ぜひ、このようなコミックなものを作曲してみたいと話された。これがきっかけとなってトントンと話が進み、一昨年八月、「吉四六」取材に来県、その機に湯布院で開かれた第一回九州オペラ協議会に出席された。「吉四六」の里、野津町では民謡クラブの人たちが、この日のために盆踊りを猛練習して先生をお迎えした。先生はその後、昨年三月第二回九州オペラ協議会を機に再度来県、取材をされた。

台本の阪田寛夫先生が来県されたのは昨年六月である。「吉四六」の墓に詣で、野津町の郷土史研究会の方々の話を聞かれたり、キリシタンセンターを訪れたり、「吉四六ばなし」の舞台になっている臼杵への道をドライブされたりした。又農家の様子なども御覧になった。先生は芥川賞候補に上り三浦朱門と「新思潮」同人として活躍、曽野綾子、有吉佐和子などの作家を育てた人ときく。二日間の取材で素晴らしい台本ができたのが恰度「蝶々夫人」大分公演の日である。

先生のお手紙に「庄屋、代官対農民の年貢争いのテーマ以外に新しい展開が出来ぬかと苦心し、そこで民話と一般的な天昇りの話をメインに音楽的にドラマチックにこれをふくらませることを最初から狙った。キリシタン娘は全くの想像で、その点から思いついた一つの手段であり、音楽的なコントラストの面白さを出すようにした。「吉四六キリシタン説」を唱えている人もあり、土地の歴史柄、あながち無理な結び付きではなかったと愚考している。「吉四六像」は、こざかしさよりは大きな愚直という方向に人物を作り上げた。愚直であり、それ故に常

人には見られぬ物が見透せる―本質が見抜ける人間という点で魅力を持った個性を描こうとした。愚直なゆえに人々から愛され、何となく尊敬されている人間に。それから今でも豊後の天地に「吉四六」が遍在している。あまねく大分の風土に生きていることを取材で感じた。これが、このオペラで伝えたいメッセージでもある。清水先生の音楽が、これをもっと具体化し、ふくらませて下さり、大分の皆さまが、それを目に見え、耳に聞えるかたちで仕上げて下さることをねがっている。」ということが書かれてある。阪田先生自身、ピアノも弾き、作曲もされるという。それだけに申し分ない台本だと清水先生は激賞されておられた。

オペラ「吉四六昇天」の作曲が出来てくるのが四月頃からということになっている。この作曲の資料となる野津及び大分県各地の民謡などの収集、録音にはＮＨＫ、ＯＢＳ、県の文化課の文化財係の方々が惜しみなく協力して下さり、野津神楽や盆踊りの録音にはＯＢＳの方々がわざわざ同行下さった。

これまでの外国のオペラには一つの定型があり、実際に舞台を観たり、レコードを聴いたりしてお手本にすることができたが、「吉四六」はオリジナルな作品だけに何物もなく、総てを創造しなければならない。その点非常に難かしい。又、大分における初演が、今後の日本における「吉四六」上演のモデルになり、基本になることを思う時、何としてでも成功させなければならないと思う。

「吉四六昇天」が大分県民オペラによって初演されたということは、将来、清水先生のこのオペラが日本の音楽史上に残る限り共に残ることであろう。

幸いわが国オペラ界のベテランである立川清登氏をはじめ、中央の諸先生の暖かい御指導、御支援を得られることになっているので、ぜひ「吉四六」を県民オペラ発展の転機にしたいものである。

48年度演劇活動の抱負

<造形劇場主宰>

野　呂　祐　吉

1　この夏休みに演劇教室第５番組の一部に神楽を教育文化の角度から再創造したい。神楽ばやしのもつ日本人なら誰もが、胸にジーンと来るあの躍動感と郷愁。神楽面の大胆で洗練された造形性。静止した時、跳躍した時に表現される装束の直線と曲線の織りなす美しさ。反閇(へんばい)を基本とするステップ。素朴で土俗的な雰囲気。又天皇性護持のための神話でなく、長い歴史の中で伝承された民族の神話をどう考えるか。映像文化の一方的享受に押されがちな今日的状況の中で、たとへば柴荒神で子供たちが実際に柴を引き合う臨場感の中で文化をとらえたい。変身する英雄や怪獣物のテレビ番組と神楽文化を対置させて日本人の心、リズム、メロディーを探って見たい。又近代芸能の見せる芸能と神楽の舞手が、舞にとりつかれる境地との比較によって芸能ことはじめを追及して見たい。

2　只今第４番組で＜マテオ、ファルコネ＞を上演しているが、観客の大半は日本のもの、吉四六さんを見たいという要望が多い。その理由には、僕たちには出来ない頓智や働きで、庄屋、代官をやっつける吉四六を見たい。現実には出来ぬ願望を吉四六さんが実現てしくれることへの期待を子供たちは抱いている。次回には吉四六シリーズ第３作を構想中

3　民俗芸能の伝承

吉弘楽、若宮楽、干束楽、獅子舞、団七踊り、扇子踊り、棒術など、各地に伝わる民俗芸能を伝承、再創造したい。

4　わらべ唄と子供の遊び

本来の子供の遊びが失われかけているように思われる現実を考え、昔のわらべ唄や遊びを扱って、子供が本当に熱中出来るもの、想像力を伸ばし、創造性を培うことの出来るものは何かを追及したい。

5　県民演劇の創造

48年度には間に合わぬが、大分県芸術祭のメーン行事として上演出来る作品として

①　馬原義民伝

天領日田の悪代官岡田庄夫の圧大制を八代将軍吉宗に直訴、願いがかなったと喜びも束の間、刑場の露と消えた義民穴井六郎右衛門の義民伝

②　日本近世史のはじまりと云われる、別府石垣原合戦をスペクタクルとして劇化して見たい。

③　詩人北原白秋の妻として、又女流詩人としてすぐれた才媛江口章子の愛のさすらいをテーマにした作品

6　大分県演劇団体連絡協議会(案)の早期結成

九州各県でも県段階の演劇組織が出来つつあるようだし、県内でもその他のジャンルの組織があることを考えると、演劇界内部でも、思想、創造方法、

形態の違いをのりこえて、早期に結成、県民演劇創造と普及に大同団結したいものである。

7　青少年のための文化会館の建設

大人のための劇場が大分市には一つもないが、青少年文化ホールや付属の図書館、資料館も含めてこれの建設運動をすすめる時が来ていると思う。

高文連活動の現状

大分県高等学校文化連盟
後　藤　和　生

大分県高等学校文化連盟（高文連）は、昭和26年6月に加盟校33校、7部から発足して、今日では61校約5万名の会員を擁し11部がそれぞれ活発な活動を展開している。

戦後、新教育の理念のもとに「学習活動」とならんで「特別教育活動」が重要視され、文化面で高文連が、各校でのクラブ活動を基盤とし、それを組織化・系列化し、県全体としての連けいを強め、互に切さたく磨し、その成果がまた各校のクラブ活動に寄与してきたのである。このクラブ活動とは別であるが、48年から正科必修のクラブ活動が実施されるため、各校においては生徒の文化活動への関心が深まり、ひいては高文連活動の向上充実の一因ともなるであろうと期待が寄せられてるのである。

いうまでもなく、高文連は、高校生の芸術文化活動で、社会人を対象とする県芸振とはきわめて密接な関係にある。昭和40年より大分県・県教育委員会・大分県芸術振興会議・大分合同新聞社の共催で開催されてきた大分県芸術祭には、高文連演劇部は毎年参加し、40年以来今日まで5回に及んで、郷土の芸術文化振興に貢献したものとして賞状を贈られているほどである。

高校時代に高文連活動を通して、芸術文化活動に親しみ、理解と関心と実績をもった多くの青年が社会人となり、引き続いて芸振活動に参加したり、または芸術文化の発展の基盤となることを心から期待する。

高文連各部の活動について説明する紙面の余裕を持たないが、本部事業としてほとんど毎年各種の九州大会等の大きい行事を開催してきたが、47年度は別府市において第14回九州高校演劇コンクールが催され、杵築高校が優秀な成績を収めた。48年度には全九州高校弁論大会が本県で開催される予定で、大いに成果が期待されている。

芸術文化活動は特に創造を貴び停滞を排する。たしかに高文連の活動は定着し、健全なあゆみを続けているが、それだけにマンネリ化の傾向に対する警戒と反省も試みられている。例えば美術部では、これまでの審査制の展覧会をアンデパンダン展とし、権威者の批評に重点をおく試みがなされたり、新聞部では取材活動演習をとり入れた研究会の実施などがあげられる。

最近の急激な物価の高騰や、各部活動の活発化をはかるための何らかの財政的処置を考慮しなくてはならぬ時期に来ていること。

またなにより大切なことは指導者の献身的情熱と直接活動する生徒・教師以外の学校関係者や一般市民の理解をより深めていく必要性を強く感ずる。

これらの諸問題の解決は社会状勢や他の教育活動とのバランスの点などから、一朝一夕には困難な面もあるが、今やその合理的解決への努力が必要となってきたといえる。48年度をその出発点としたいものである。

大分県歌人クラブ

田　吹　繁　子

今年になって旧会員の調査確認を急いでいるので新年度からははっきりした会員数で発足できると思う。また古い会規を改正、時代に即した新鮮な活動をしたいと思っている。

これまでは5月の県大会（20回）と秋の芸術祭参加短歌コンクール（8回）を主催してきたが、そのほか今年度は新しく20首詠を募集して、意欲的な作歌活動をしている新人を顕彰し一般の意気を高めたいと思っている。

また歌集を出版するむきもこの頃は大へん多くなったが、これまでの各グループの記公歌会のほか、クラブとして超党派的な方法も検討中である。

このほか各地歌会への後援もできるだけ拡大してゆきたいと思っている。

大分芹俳句会

大分芹俳句会幹事
久保　青山

第9回県芸術祭・第7回俳句大会

二豊の地において平素俳句をつくられている方々が一堂に会し、日常生活の創作を披露し、併せて県短詩型文芸の向上に寄与するため、芸術祭主催行事としている俳句大会も回を重ねること今年で7回となりますが、年々参加者もふえ、あまつさえその作品の内容も進歩しつつあります。本年は次の予定であり、県俳句連盟の理事会の承認をえて正式に決ります。

日　時　昭和48年10月7日午前10時
場　所　大分市駅前朝日生命館7階ホール
方法等　3句投句　3句互選・選者賞（大会賞・佳句賞等）

本年は、選者も増加されることであろうし、初参加者も多いことと思います。

大会の意見として、初心者と上達者を区別し、第1部、第2部にせよとの声がありますが、これもできないことと存じます。何れにせよ写生句の幅広いもの、掘り下げた句が多いことでしょう。

県俳句連盟の拡充

昭和46年10月3日県内で俳句をたしなむ者を一丸として結成した本連盟は、今秋第3回の総会を迎えますが、本年は会員 500名を突破させたいと思っております。

各地句会の実態調査

各地で毎月定例の俳句会が昼夜の別なく、開催されておりますが、本年度は、名称、期日、場所、参加人員会費、句数等を調査したいと存じます。

ホトトギス同人に樹風氏

大分市上野丘5―8居住の県立碩南高等学校教頭篠原虎太（樹風）氏はさきにホトトギス同人に推せんされた。今後の活躍が望まれています。

地方の文化活動について

文化の香り高き都市づくりを

宇佐市文化協会長
岡部　忠之

市発足以来6年にして宇佐文化協会は昨9月発足しました。胎動は2、3年前より市内文化グループの調べやその活動の状況などを確め、市社会教育課や有志で準備委員会をもうけて出発先進地竹田、山香、国東等の見学その活動の状況を調査等、数次の会合の結果設立の運びに至りました。社会生活において人々が休日や余暇に芸術を愛する心を持つそんな市民を沢山育てたいといふ事になります。よき市民のよき街づくりをとの念願です。発足当時22のグループは現在60になり、会員総数千余名6万市民の2％がなんらかの形で、芸術活動に参加している事になります、第1回の会報は2月に発行しましたが、会員間の連絡強調や市民皆さんに知って戴くなどその反響は極めてよかったです。昨秋の県芸術祭には日程の関係で参加出来ませんでしたが昨冬には協会主催や後援にて、盆栽、邦楽、舞踊、生花、書写真、詩吟、茶、美展等の会を盛大に催しました。市補助10余万円の経費をかけました。中でも県美協秋季展作品巡回展には新しく造った県下一のパネル20面を利用し、本部トキハ会場以上のよい会場で、よい鑑賞が出来ました。12月17日には県民オペラ蝶々夫人の公演を文化協会主催で行いました。一昨年の椿姫は市教育委員会の主催で観客の動員が割合スムースに行った様でしたので、教委のすすめで実施に踏み切りましたが、大へんな仕事で予算50万を全部前売り券一般千円、学生券3百円でやったわけです、しかしお陰で、市民千人の絶大な御後援を得て、無事完了出来ました。この行事を通じて得た事は協会会員相互の融和、協力、連携を緊密にする事が出来た事です。今年は「吉四六さん」との事。引続き3回目の公演をやってもらう事に予定しています。

来年は本会会員の放送作家、今戸公徳氏が朝日長者物語りを創作されている由で、これのオペラ公演は今から期待して待っています、県民オペラ公演に関する限り宇佐市は県内11市の中で大分市に次ぐ、文化都市だと自まん出来そうです。ところで会場ですが、高校体育館を利用していますが県文化会館の舞台の4分の1です。狭いのです。県北の中核文化

都市として、市の大文化会館つくりに協力したいと考えております。芸術文化活動にはその発表の場が極めて必要です。その意味から会館の建築設立は、グループ活動活発化の上にも欠くべからざるものです。市当局へ要望や陳情をやっています。やがて実現しましょう。先年私、西欧９ケ国の旅を一ケ月に亘ってやりました。１万粁に近いバス旅行で隅々まで見て来ました。世界の一番美しいところ美しい物をです。西欧の国々の芸術文化尊重は想像以上です。５万位の町には美術館があります。日曜日は観覧は何処も無料です。私も貴重な体験を通して市民に奉仕したいと考えております。理想社会は市民の幸福の限りない追求と進展を計る事にあります。正月以来協会は神宮短歌会、献茶会、歌留多会、菟狭句会桜、諷謡曲会に参加後援など賞品賞状を出したり、激励したり等、多忙な48年を迎えております。

新しい文化の芽生えを期待して

玖珠町芸術文化振興会事務局
相　良　篤　司

芸術文化の振興をはかるということは良く云われますが、大変なことだと思います。地方文化の向上を願う人々は数多くいますが、それが発展しない大きな原因として、良い指導者が少なく、発表や集会の場所がない、発表の機もないといった、ないないづくしだからで、せめてその一つでもと常日頃より考えていました。

幸い本年４月に待望の中央公民館が開館され、町民の文化センターとしての働きをすることになりました。大集会室は各種の芸術・芸能の発表に使われるように、大きなステージ、照明装置、舞台装置、拡声装置等が考慮され、それらの設備がコントロールルームより操作されるようになっており、文化ホール的性格が持たれています。又、音楽、映画の鑑賞には音響面で留意された視聴覚室があります。各種文化団体の会合や練習のためには会議室、和室、実習室等も整備され多くの人々の利用が待たれています。

この新しく出来た施設設備を使って、今日まで停滞していた文化活動を、一斉に展開させたいものです。

施設のルームやコーナーには有名な絵画や書、彫刻が飾られるだけにとどまらず、町内各種文化団体グループ会員の協力によりその作品が展示され、時々新しいものに変っていくようにしたいと考えています。

公民館は私達一人一人の作品の発表の場であり、発表の機会であり、史話に根ざした文化の香り高い殿堂にしたいと思います。又、これを機会に各種の趣味グループや、芸術、文化のグループが生まれ、かくれた文化人の発掘が行なわれれば、素晴らしいことではありませんか。

地域の同好の者が、１年間の努力の結晶を、お互いに発表しあうことは楽しいものです。時には素晴らしい指導者や劇団、楽団等を招待したり、書画の展覧会を開いたり、映画を鑑賞したり、相互の研修や同好の友と交流、交歓の会を持ち、芸術文化の振興発展を図りたいと願っています。

考えれば次々と夢が湧いて来ますが、このうち一つでも二つでも実現させるよう頑張って行きたいと思います。

国内では日本列島改造が盛んにさけばれていますが、芸術文化の改造もさけんではどんなでしょうか

商業主義に毒された中央文化に対して、新しい文化の芽生えは、今後の方向づけをする大きな原動力となりましょう。私達の小さな力を結集してこそ大きな力となり、地方文化振興の意義が生まれて来るのではないでしょうか。

やっと動きだした文化活動です。どの方向にとんで行くかわかりませんが、ふるいものからぬけ出したいと思っています。県内の皆様方のあたたかいご指導と、ご声援をよろしくお願い申し上げます。

臼杵市文化連盟事務局
高　橋　　正

臼杵は県下でも有数の文化活動都市の一つである。これは臼杵をとりまく美しい自然環境と相俟って、 江戸時代260年間にわたる歴代臼杵藩主の学術奨励がその母胎となって現在開花となったわけで、今更ながら祖先の叡知と、偉業に感謝せざるを得ない。

もちろん藩制時代以後も、作家、芸術家やその底辺を形づくる町の文化人等多士済々輩出、各種文化同好会や、サークル的なものも育ち戦後に至ったが10数年前これら文化活動諸団体が総合して臼杵市文化連盟が誕生、ここに一時期を画した。

わが臼杵市文化連盟には現11の加入団体があり、10数名から多くは100余名まで会員を数え、 週１回宛開く会から、１か月１回までのものまで、市民生

活に浸透している面ではわが臼杵市の誇りともいえ更に新年度には新に加入希望の同好会もあり、将来の発展が期待される。しかし年令的に概観した場合可成一定層の年令に偏向も見られ、所謂若手会員の数が要求される面も少くない。折角義務教育で培われた青少年の文化面も卒業以後は個々の趣味的なものに陥ったり、視野の狭い１人よがりの活動では発芽せず枯死する植物みたいで悔やまれてならない。

こんな青少年の啓蒙や勧誘が今後の宿題の一つである。また、年１回臼杵市秋の文化祭が11月に約１か月の期間にわたり華々しく開催され市民の話題をさらう。しかしこの発表の場を老朽化した点と、その他設備的にも種々現代化が要求される声が聞かれる。毎年の理事会の席上でも澎湃として話題になるのがこの問題で、所謂市民会館建設のかけ声である。この新館がめでたく落成したその暁には臼杵市の文化活動が第２の新時代を画し、より一層の発展をみるわけで、われわれはこの際文化に貢献した祖先に対して万分の一のお礼返しができるわけである。

天主堂を尋ねて

大分県立芸術短期大学附属緑ケ丘高校指導監
田　中　　昇

仏教寺院の塔には前々から魅力を感じていたので関西以西にある塔はあちこちと、大部尋ねて歩いていた。昨年春、長崎に旅して天主堂を見てから、今度は頂上にクルスをいただいたその塔の姿に魅かれはじめた。勿論日本にある天主堂はせいぜい明治の初め頃からの建築であろうから、仏教寺院の塔のような古色はない。しかしそのエキゾチックな建物とかって迫害を受けたキリスト教の歴史等を考えながらこれを仰ぎ見ると、信仰心のない僕にも不思議な美しさを持って迫って来るのである。

長崎大浦の天主堂は石段の上にシンメトリイに立っていて、上って行くと見下ろす角度のマリア様が、優しく甘い雰囲気だった。それに比べて浦上天主堂は、小雪の降りしきる曇り空であったせいかパセティックであった。原爆に首をこわされた天使達の像を見て来た為かもしれない。扉を閉ざして悲しく冷たく立っていた。

天草下島の西南端に、崎津、大江の天主堂がある。崎津部落の屋根瓦のかたまりの上に灰色の塔が聳え、家々のこちら側には漁船が夥しく泊り、堂はまるで家や船にとりかこまれ、守られていると言う感じであった。黒衣のシスターが野菜屋で買物をし父親に手を引かれた幼な子と話していた。老漁夫と立話をしていた異国の神父さんも印象的だ。天主堂の内部は畳敷きでこれも庶民的であった。

大江の天主堂は丘の上に春の光を一杯に浴びて白々と立っていた。周囲に民家がなく十字架の墓石に囲まれて淋しそうだった。浦上の天主堂のように扉を閉ざし人気もなかったけれど、春の暖かい日が当っているのが救いであった。

平戸の町にはフェリーで渡らねばならない。平戸に近づくにつれて左手の平戸城天守閣の陰から、トレードマークのような天主堂の正面に見えてきて楽しい眺めである。仏教寺院の屋根ごしに見える天主堂の写真は、平戸を紹介する本には必ずのっているが周囲を廻ると実に静かな環境である。

車で少し南に下って紐差と言う部落にも天主堂がある。建っている場所や建物の形が、大江の天主堂に似ている。誰もいない堂内の装飾やステンドグラスを黙って見た。帰りの道の途中からふり返った時の天主堂は、孤独な感じで印象的であった。

佐世保で列車を乗りつぐ間に、駅前の天主堂を尋ねた。今までのどの天主堂よりも大きく、しかも広い通りに面した崖の上に建っているので、非常に高く天に聳えていると言う感じである。坂道を上って裏に廻って見たが逆光になったゴシック風の塔の頂上のクルスが何とも言えず劇的であった。

五島列島に古い天主堂幾がつかあるのを知っている。何時かは海を渡ってそれらの島々を尋ねたいと、今しきりに思っている。神戸の天主堂は見に行けるとしても、北海道函館の天主堂まで尋ねて行けるだろうかと、そんなことも考えている。

第8回大分県芸術祭賞決る

12月8日開催された県芸術祭運営協議会の答申に基づいて、下記のとおり芸術祭賞および感謝状を贈呈する。

贈呈式は12月21日、開催する県芸術文化振興会議理事会において実施する。

記

1　芸術祭賞

(1)　大分県吹奏楽連盟（会長　和田政見）

開会行事としての県民吹奏楽「交響曲新世界」の画期的演奏によって県下音楽界、県民文化の向上に寄与した業績によって表彰する。

(2)　大分県番傘川柳連合会（会長（代表者）内藤凡柳）集中行事として県下の川柳関係者の結集を図るとともに創作活動に尽力し、地方文化の向上に寄与した業績によって表彰する。

(3)　佐伯市文化振興会（会長　片山覚自）

参加行事として地方の特色を基盤に、意欲的で着実な成果をあげ、しかも市民総参加の実をあげており、地方文化の向上に寄与した業績によって表彰する。

2　特別感謝状

(1)　ジェムス・バーダル(東京武蔵野音大客員教授)

県民吹奏楽の指揮者として芸術性創作性の高い演奏を行ない本県音楽界に多大の業績を残した功により特別感謝状を贈呈する。

(2)　福田五彦　大分高等学校マンドリンクラブ

永年に亘り県下マンドリン界の指導者としての功績と大分高等学校マンドリンクラブの指導育成に尽力し、しかも県芸術祭参加行事として8回に及び多大の業績を残した功により特別感謝状を贈呈する。

(3)　大分合新聞社

県芸術祭特別参加行事として「オリエント美術展」を開催し、曽ってない貴重な芸術品を展示し本県芸術文化の向上に寄与した業績に対し、特別に感謝文を贈呈する。

3　感謝状　38団体

芸術祭に参加して諸行事を実施し、地方文化の向上発展に貢献のあった下記の団体、個人に対し感謝状を贈呈する。

(1)県美術協会　(2)県洋舞踊協会　(3)県音楽協会　(4)県職場音楽連盟　(5)県歌人クラブ　(6)県俳句連盟　(7)県高等学校文化連盟　(8)劇団造形劇場　(9)県連合青年団　(10)大分市現代筝曲研究会　(11)別府芸能文化協会　(12)大分高等学校マンドリンクラブ　(13)大分県三曲協会　(14)大分大学軽音楽部スイング・ブラザース　(15)大分子ども劇場　(16)竹田市文化連盟　(17)県人形劇サークル協議会　(18)別府市教育委員会　(19)日出町文化協会　(20)大分市教育委員会　(21)雲竜文化書芸院　(22)藤茂会　(23)県児童文化協会　(24)津久見市文化協会　(25)緒方町芸能文化連盟　(26)玖珠町文化振興会　(27)豊後高田市文化協会　(28)犬飼町文化会議　(29)武蔵町文化協会　(30)直入町教育委員会　(31)山香町文化連盟　(32)清川村教育委員会　(33)久住町文化連盟　(34)国東町文化協会　(35)淡窓伝光霊流日本詩道会　(36)関心流日本興道吟詩会大分県本部　(37)県オペラ研究会　(38)県立青山高等学校

第9回県芸術祭主催行事（案）

1　主催行事

(1)　期　　日　10月1日（月）

(2)　場　　所　大分文化会館

(3)　事業内容

ア　県民オペラ公演　「吉四六昇天」

イ　日本舞踊公演　「花柳流、藤間流合同」

48年度第5回九州沖縄芸術祭事業

1　九州をテーマとするカンタータの夕べ

九州の自然風土をテーマにした新作カンタータの作曲を、郷土出身の作曲家、団伊玖磨氏に委嘱し、この作品を中心に、同氏作曲の「筑後川」「西海讃歌」を加えて、舞台を構成する。

(1)　巡回予定　九州各県

(2)　入 場 料　500円程度

2　東京クワルテット巡回公演

1970年、9月、ミュンヘンの国際コンクール第1位入賞、世界の注視をあびた四重奏団、いづれ

も桐朋学園出身、米国ジュリアード音楽院留学の若い弦楽奏者たちで、平均年令27才である。

(1) 巡回予定　九州各県

(2) 入 場 料　500円程度

3　九州の笑い（九州にわか大会）

九州各県の特色ある「にわか」等を舞台構成し各県を巡回する。

(1) 巡回予定　九州各県

(2) 入 場 料　未定

4　九州現代工芸秀作展

美術館博物館の設備ある県に限る。（大分除外）

5　第３回九沖グラフィックデザイン展

公募作品を含め、約150点を展示し、巡回する

(1) 巡回予定　（大分会場　８月予定）

(2) 入 場 料　無料

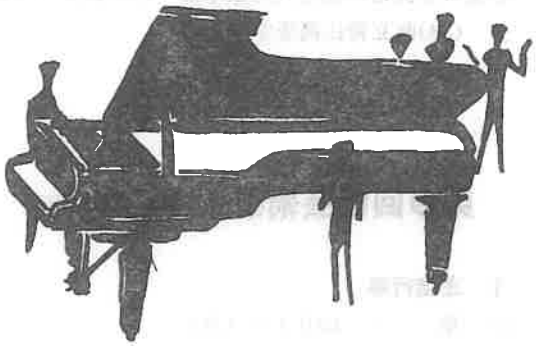
6　九沖文学賞公募（第４回）

期間５月～８月、枚数60枚（400字詰）

本年度から詩も加えたい（検討する）

7　九沖文化年鑑刊行（第２回）

第１回規模のもので刊行予定は昭和49年３月



ヤマハピアノ
デェアパソンピアノ
トニカピアノ
エレクトーン
ヤマハNSステレオ

エレクトーン教室開設
大分県特約代理店

白沢ピアノ店

大分市府内町２丁目６
電話(32)3930・6331番

ピアノは演奏者の感情をそのまま鍵盤を通して
美しい豊かな音として表現されなくてはなりません。
ピアニシモからフォルティシモまで
巾広い豊かな音を生み出すカワイピアノ
全音域にわたって美しいハーモニーの得られるカワイピアノ
パーフェクトの真の意味をカワイピアノで実感なさってください。

カワイピアノ・オルガン

河合楽器製作所大分営業所
大分市中央町1丁目1番22号
TEL大分
0975—34—7007・7009

西 独シンメルピアノ ヤ マ ハピアノ
チェコペトロフピアノ カ ワ イピアノ
手 エクロイツェルピアノ エレクトーン

共済をご利用ください
★ご指定
大分県小中学校生協・大分県高校生協・国鉄・電話局・郵便局・大分県庁・市役所・裁判所・大分県警・旭化成・日鉱佐賀関・大分交通

サトーピアノ

大分・千代町勧銀バス停前　TEL ㊱ 4032
中津店・中津市京町2丁目　TEL 0979 ㉒ 7144

ムードの豊かさとサービスの万全を期す!!
===宴会・会議===

新しいセンス
とテクニック
すべてのデザインの基礎は
カットです

総合結婚式場 大手町会館

ビューティーサロン エッチ美容室

各種貸衣裳も豊富に取揃えてございます

大分市大手町3丁目3—30　TEL {会館 ㉜ 6623 / 衣裳部 ㉜ 0718

大分市大手町3丁目3—30
TEL ㉜ 4423